

水戸葵陵高等学校医歯薬コース

2015年4月

医歯薬通信 **SANS FRONTIERES** vol.19

水戸葵陵高等学校ホームページ <http://www.kiryu.ac.jp/>

はじめに

平成27年度大学入試もいよいよ佳境を迎え、2月25日からは国公立大学の前期日程試験が一斉に始まりました。医歯薬コースにおいても、すでに昨年11月以降、志望大学や志望学部への合格者がぞくぞくと出ており、「10年連続医学部合格」も達成することができました。進路目標を実現した生徒の皆さんには、その健闘を大いに称えたいと思います。これからも朗報が次々と舞い込んでくると確信しております。これまでやってきた自分に自信をもって試験に臨んでもらいたいです。最後までやりきった自信はこれからの人生に十分に生かせることができます。最後の最後まで粘り強く頑張れ！

8年ぶりに3階職員室の住人となった者として、1・2年の在校生にも新年度に向けてエールを送りたいと思います。当時の先輩たちの中にもいましたが、今も毎朝7時前に登校し授業に備える生徒さんがいます。これも医歯薬コースの伝統の一つになったということでしょうか。この冬も寒い日が続きましたが、7時前に登校するという事は、寒さに加えて1月末までは薄暗い中、学校へやって来るということになります。高校時代に冬日課を自主的に設定して9時過ぎに登校していた身としては、ただただ頭が下がる思いです。そんな私からですが、勉学にひたむきに勤しむ皆さんには「花の咲かない冬の日、下へ下へと根を伸ばせ。」という言葉に胸に刻んでもらいたいです。寒さに耐えた地道な努力によって蓄えられた力は、春の暖かさの中で芽を出して、やがて花を咲かせ実を結ぶことと思います。大きな花でなくていい、決して華やかでなくていい。皆さん一人ひとりにとって美しく思える花が咲くことを願っています。

いのちの学習会

12月17日(木)筑波大学医学医療系消化器外科移植外科医の高恵輔先生を講師に招き、「臓器について知っていますか？」という演題でご講演頂いた。イスタンブール宣言の説明、日本と諸外国における臓器移植の現状についてご説明頂きわが国における臓器移植の諸問題について分かり易くご講演頂いた。生徒は喫緊の問題として真剣かつ今日も部会態度でメモを取り、拝聴していた。



行事予定

～ 3月 ～

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 2日(月) MT, 卒業式予行演習 | 16日(月) 医歯薬講演会 |
| 3日(火) 第28回卒業式 | 23日(月) 終業式 大学合格体験談 |
| 4日(水) WT | 25日(水) ～31日(火) 春期課外 |
| 7日(土) 総合学習発表会 | 31日(火) 第1回追考査 |
| 10日(火) 教科書販売(2年) | ～ 4月 ～ |
| 11日(水) 教科書販売(3年) | 6日(月) 始業式 |
| 12(木) 成績判定会議 | 7日(火) 入学式 |

高校生医学セミナー病院見学会

平成26年度医学部進学希望者のための高校生医学セミナー病院見学会」が12月6日(土)茨城県立中央病院で実施されました。本校からは1年生1名2年生3名見学会に参加しました。また、ダヴィンチ(ロボット支援手術装置)や内視鏡シミュレーターの操作を実際使用したり、一次救命処置法の実技講習を体験したり、普段見られない病院の施設を見学したり、医師や病院スタッフの方から「医師になったきっかけ」など直接お話を伺ったりと、学校ではなかなかできない体験ができたようです。体験の様子は茨城県立中央病院のHPに掲載されています。<http://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/archives/6772>

救急救命講座

1月30日(金)本校に指導ボランティア講師6名をお迎えして、1年生医歯薬コース36名を対象に救急救命講座が行われた。まず前半では応急手当の大切さを学んだ。声掛けからの心臓マッサージ、気道を確保して人工

呼吸を行う流れを確認した後、講師の補助を受けながら生徒一人ひとりが心臓マッサージ、人工呼吸を行った。後半ではAEDの講習を受けた。同年代の女子高生が心室細動で倒れてしまい、命を落としてしまった事例をDVDで紹介された後、負傷者を発見した際どのように行動すればよいのかを学んだ。AEDの操作自体は音声ガイドに従って行えばよいので難しくはない。しかし周囲に助けを求め、現場に居合わせた知らない相手に対して、個別に救急車の手配、AEDを探してきて欲しいという旨を大きな声で依頼する。その流れを確認した後、級友を現場に居合わせた知らない相手と想定して、積極的に声をかけ、AEDを使用する一連の流れを体験した。最後は、出血しているところを圧迫し心臓よりも高い所へ動かすことや、回復体位について様々な事例が紹介された。



人形相手であったためか、最初は皆ぎこちない動きが多かったものの、事例のDVDを鑑賞してから明らかに雰囲気が変わって、講師の方からのアドバイスに耳を傾け、一所懸命に取り組む姿が見られた。医療系を志望するただの高校生という立場であっても、いざ現場に居合わせた際に、自分たちにでも目の前の人を救うためにできることはたくさんあるんだと学ぶ良い機会、講習となったことは間違いのないだろう。

かさまマラソン

12月21日笠間市で実施された第9回かさま陶芸の里ハーフマラソン大会に本校医歯薬コース1、2年生の生徒約40名がボランティアスタッフとして運営に携わりました。給水係やスープサービス、計測チップ回収係など各自参加ランナーが快適に過ごせることを意識しながら考え行動していました。ただ単にその仕事をこなすだけでなく、「頑張ってください」などの激励の言葉を掛けながら参加約5500人のランナーにエールを送っていた。また、逆に「ありがとう」という言葉を返され仕事のやりがいや、ボランティアの意義を感じた1日でもあったようです。

第2回医師講演会



2月5日筑波大学医学医療系地域医療教育学講師阪本直人先生をお招きし、『医療のサイエンスとアート、総合診療の視点から』というタイトルで講演会が実施された。講演の中で、先生から具体的な仮の患者の情報が提示され、それを踏まえてどう診断するかという質問があり、生徒たちは、その患者のライフスタイルや医師に訴えている症状などから高校生なりに考えられる診断をするなどしていた。いつもの講演会と違い自ら考え説明するといったスタイルの講演会であったため、また違う角度から医療に対する見方ができたようであった。

修学旅行2年



写真:医歯薬コース長崎平和公園にて。1組のみみんなで平和を願って千羽鶴を作り捧げました。また戦死された方々のご冥福をお祈りし黙祷を捧げました。

- 2月7日(土)～2月12日(木)
5泊6日で修学旅行に行ってきた。今年度は11月にパリ・ロンドンの修学旅行を予定していましたが、エボラ出血熱やイスラム国の問題など生徒の安全確保が難しいことから、行き先を国内に変更しました。修学旅行の日程は以下の通りです。
- 1日目 沖縄(首里城等)
 - 2日目 沖縄(美ら海水族館等)
 - 3日目 沖縄(平和記念公園)
～福岡(関門海峡等)
 - 4日目 長崎(平和公園)
班別研修(長崎市内)
稲佐山展望台
 - 5日目 クラス別研修
医歯薬コース
(長崎軍艦島～熊本熊本城)
 - 6日目 福岡(九州国立博物館
～太宰府天満宮)

2年1組 修学旅行での戦争と平和

私たちは、修学旅行へ歴史や文化を学びに行き、5泊6日という長い間考えさせられることが多々ありました。

私たちが最初に訪れた沖縄で1番目に驚いたことは、ある都市での米軍基地がその地域の土地面積の半分以上もあったことです。その時私は、この平和になってきた世の中でも武力は必要なのかと思い、それと同時に、武力でしか安定させることのできない治安に人間の闇を感じました。

3日目に訪れた沖縄の平和祈念公園では慰霊碑の多さとその一つ一つに刻まれる人の名前数の多さを見ると戦争の愚かさ、恐ろしさを改めて実感しました。事前の授業で見た戦争のビデオでも死者何万人という場面もあったが、聴くのと実際に見るのでは受ける衝撃の大きさは全く異なるものでした。第3次世界大戦が起きたら世界は滅びる、と前からたくさんの方が言っていましたが、今の世界の技術をもってすれば本当に滅亡してしまうのではないかと思います。現在外交関係のうまくいっていない国々などどのような関係になるのかが心配にもなりました。もちろん日本だけが戦争をしなければよいというわけでもないので、私は戦争の残酷さや愚かさを今後の世代にも強く言い聞かせ学んでほしいと思いました。

4日目に訪れた長崎の平和公園では原子爆弾の脅威で残った建物の話を聴き実際に破壊された建物を見て、今後日本のような被ばくする国はあってはいけないなと思いました。平和公園にあった平和を象徴する像にみんなで黙祷をし、みんなで作った千羽鶴を奉納し、普段はあまり考えない「平和」を考える良い機会になったなと思いました。

私は日本の歴史をあまり良い物であるとは思えないが今後の世界平和に生かしていくことができる歴史であると考えました。

2年1組 修学旅行で感じたこと

楽しい気持ちと不安な気持ちの中で、朝出発を迎えた。1日目の沖縄は、空港に到着したときから特別な場所を感じた。人生二回目の沖縄だったが、前回来たときとはまた別の感覚だった。最初に訪れた首里城は、琉球独特の文化を感じとれた。戦争で一度は焼失した今も、うちなーんちゅが守り継いできた琉球の文化と精神に圧倒された。日本と中国の文化をうまく融合し、独特の文化を築き上げるという考えには、驚き、私もこれからは考えを応用し日々を生きていきたいと思った。そして、最もその土地の特徴が表れていたのは方言だった。なじみのない地名や名字、言葉だったが、どこか温かみを感じ、さらに理解を深めたいと思った。

二日目は、お土産というよりも思い出に残し、これからは生きるようなことをしたいと思っていたので、食べ物の味や特徴、自然の植物や生き物を観察することに重点をおくことにした普段とは違った味を堪能し、さまざまな植物や生き物、土地の特徴を知った。

三日目と四日目は、平和について学習をした。普段のニュースや新聞では想像もつかない戦争の悲しみを沖縄・長崎の現地で感じる事ができた。最も印象強かったのは、戦没者の名前が刻まれた平和の礎、医師・放射線研究者として生涯を全うし未来の医学に貢献した永井隆さんの生き方だった。これほどまでに多くの犠牲者を生み出した戦争の中で原爆の恐ろしさを身をもって証明した永井さんの精神に感動し、私に人や自然の役に立ちたいという気持ちを奮い立たせてくれた。

そして、九州に行くのは初めてだったが、昔ながらの九州の名物料理を味わい風情を感じる出島、オランダ坂、軍艦島、熊本城・大宰府天満宮にも行くことができ、それぞれの良さを感じることができた修学旅行だった。今回学習したことを今後にもいかせよう。